仙台大学紀要
2006, Vol.37, No.2, pp.63-70

資　料

National Athletic Trainers'Association(NATA、全米アスレティックトレーナーズ協会)と第56回NATA年次総会報告

深井　麻里、石川　　旦、朴澤　泰治、佐藤　美保

National Athletic Trainers' Association (NATA) and the Report of 56th Annual Meeting and Clinical Symposia of NATA

FUKAI Mari, ISHIKAWA Noboru, HOZAWA Taiji, SATO Miho

The purpose of this paper was 1) to discuss the general background of National Athletic Trainers' Association (NATA) and 2) to present the summaries of the 56th Annual Meeting and Clinical Symposia of NATA which representatives of the Sendai College's research group, whose having research on "The method of talent development in the certification of the Athletic Trainers in the United States by using the distance learning of outreach college in University of Hawaii", was attended in Indianapolis, Indiana of the United States from June 12th to 16th in 2005. The report presents 1) The background of NATA and ATC (Certified Athletic Trainer), 2) Outline of the annual meeting and clinical symposia of NATA, 3) Outline of NATA meetings' sessions.

Key words：National Athletic Trainers'Association (NATA), ATC (Certified Athletic Trainer), Distance learning

1) National Athletic Trainers' Association (NATA、全米アスレティックトレーナーズ協会)の背景とATC(Certified Athletic Trainer)について

米国での近代的なアスレティックトレーナーの活動の起源は「アメリカンフットボール」と深い関わりがある。米国では19世紀後半にアメリカンフットボールが紹介され、大学スポーツとして盛んになった。しかし、ルールの問題もあり、1905年にはこのアメリカンフットボールによる死者は18名、重傷者は159名と死傷者が続出した。この状態を知った当時の大統領ルーズベルトはアメリカンフットボールを大学のスポーツとしての活動禁止を考えたほどであった。この時代のスポーツ傷害にはコーチやチームドクターが対応していたが、特例として1881年にハーバード大学のアメリカンフットボール部には「アスレティックトレーナー」が雇用され、その存在が知られるようなり、少しずつではあるが、危険を伴うスポーツ「アメリカンフットボール」と「アスレティックトレーナー」の存在価値が社会に理解されていく第一歩となった。[1,2,3]その後、1938年にアイオワ州で初のアスレティックトレーナー組織が生まれたが、第二次世界大戦などの理由で組織の維持はできなかった[2]。現在のNational Athletic Trainers'Association(NATA＝米国アスレティックトレーナーズ協会）は1950年に創設され、初の総会（参加者125名）はカンザス州ミズーリで行われた。[1]

NATAはその使命を「競技選手と運動に関わ

る人々のヘルスケアの質の向上、及び傷害の予防、評価、管理、リハビリテーションの分野での教育と研究を通じてのアスレティックトレーナーとしての職域の発展」であると述べている。[4]

NATAはその資格関係の運営のためNATABOC(NATA Board of Certification＝全米アスレティックトレーナー協会資格委員会、以下BOC)という機関を用いて資格試験を行っており、資格試験取得者にはATC（Certified Athletic Trainer＝アスレティックトレーナー資格保持者）の称号が与えられる。この資格試験を受験するには、CAAHEP（Commission on Accreditation of Allied Health Education Program＝準医療教育認定委員会）で認められたエントリーレベル・アスレティックトレーニングコースを卒業すること、あるいは卒業見込み（最終学期）で、学校の定めるカリキュラムを修了した者であることが必要であるとしている。この場合の受験者は、学士を有していることが原則となる。[5]ATCの資格試験は、年間5回、全米の所定地で行われる。資格試験内容は、筆記、シュミュレーション筆記、実技の3部門である。また資格試験に合格してからも継続教育が必要で、資格取得者は3年毎に継続教育の書類を提出する。

NATAの行っている統計結果（2005年11月）によれば、米国における現在の全ATC(n=24,789)の就職先は図1に示すとおり、スポーツメディシンクリニックや病院(25%、n=6,352)、大学や短大(22%、n=5,472、教育職と現場職を含む)、高校や中学(18%、n=4,467、現場職)、スポーツメディシンクリニックと高校兼務（7%、N=1,677、午前中はクリニック、午後は高校の現場職）である。スポーツメディシンクリニックとの兼務職も含めると、ATCの約半数は大学、高校での活動、4分の1は病院やスポーツメディシンクリニックで、一般市民を含むより広範囲におけるスポーツ競技参加者のケアに係わっており、プロスポーツへのアスレティックトレーナー活動は全体の割合から比べると一部（3%）でしかない。そのため、米国における一般的なアスレティックトレーナーの活動は、若年者スポーツや一般市民スポーツに深く関与しているといえる。またNATAは

図1　ATCの就職先
NATA　Member's Statistics 11月結果（参考文献6）より作成
(n=24,789, 全ATC)

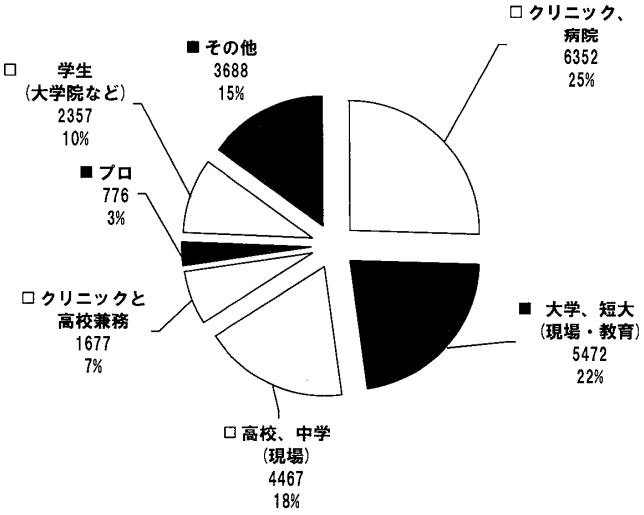
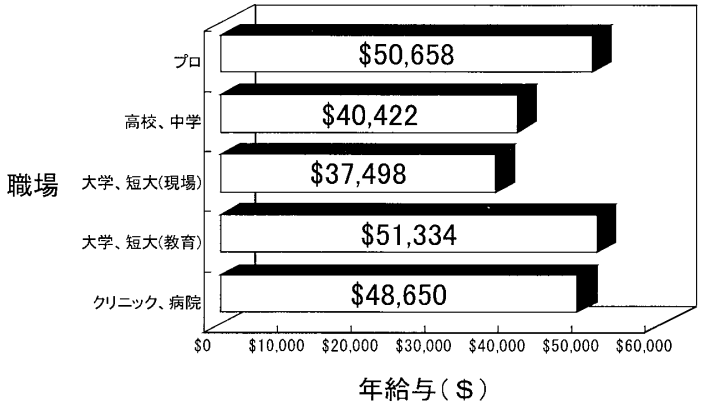


図2　就職先別平均給与（年額）
NATA NEWS　6月号（参考文献7）をもとに作成
(n=5414, 全NATA会員の17%回答，常勤職のみ)



資格保持者（ATC）の給与についてのアンケートをオンラインで実施しており、2004年の調査で全会員30,439名のうち5,414名（17%）の給与調査の結果を報告している（図2、3、4）。この報告から各活動場所による具体的な給与が伺える。この調査参加者の平均年齢は31歳、男性が58%、女性が42%であり、全体の85%が常勤の立場でアスレティックトレーナーあるいは関連職種で活動していた。平均の週労働時間は54時間であった。この調査は毎年行われているが、年間の給与額は昨年の結果より増加傾向にあるという報告がなされている。[6,7]

図3　学歴別平均給与（年額）
NATA NEWS 6月号（参考文献7）をもとに作成
(n=5414, 全NATA会員の17%回答, 常勤職のみ)

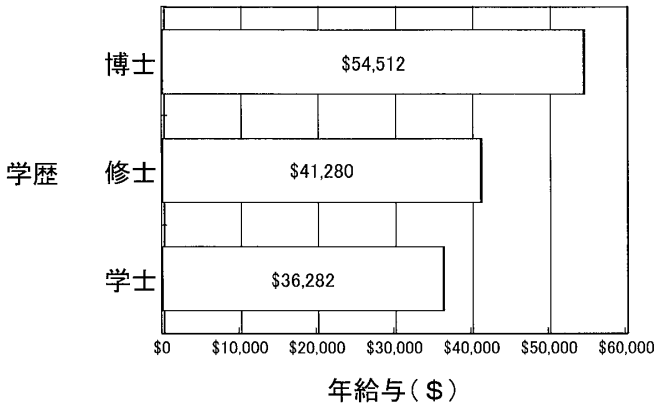
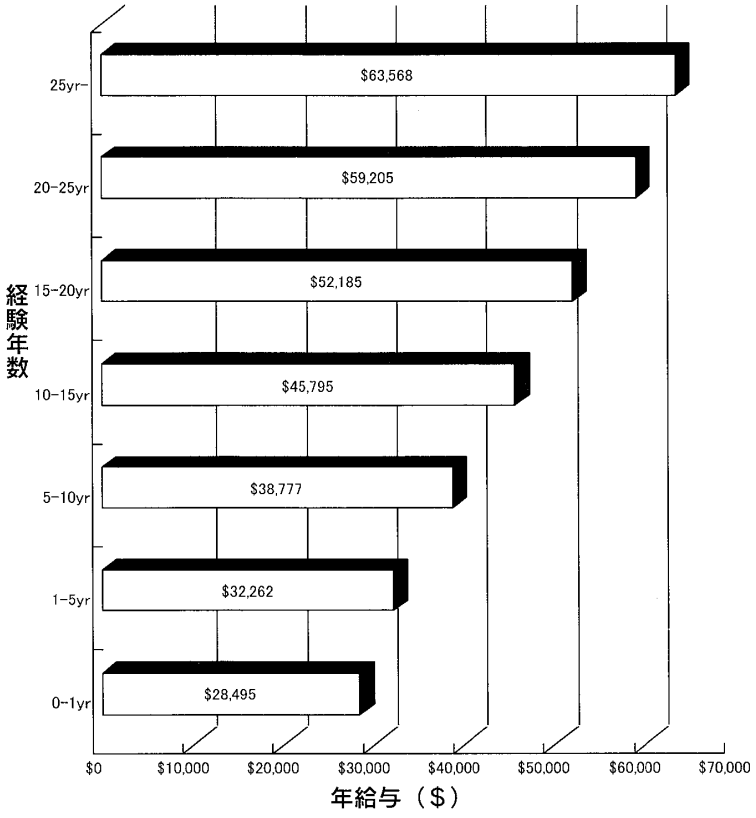


図4　経験年数別平均給与（年額）
NATA NEWS 6月号（参考文献7）をもとに作成
(n=5414, 全NATA会員の17%, 常勤職のみ)



2）NATA年次総会概要

平成17年6月12日から16日にかけて、第56回NATA年次総会が米国インディアナ州インディアナポリスのコンベンションホールで行われた。（図5、6、7）総会での発表形式は、1）一般シンポジウムセッション、2）ワークショップ、3）ミニコース（短期実技）、4）上級セミナー、5）ポスター、6）口頭発表、7）学生セミナーがあり、その他スペシャルゲストによる講演会や、会員同士の交流を図るための女子バスケットボールプロチーム観戦、ゴルフ大会なども企画されていた。ATCはこの総会に参加することで、CEU（Continuing Education Unit=資格更新に必要な単位、3年間で5つのカテゴリーから80単位の取得が義務付けられている）を24単位取得できる[8]。

1）一般シンポジウムセッションは全37セッションあり、各セッションのトピックについて座長とスピーカー（2～5人程度で）で進められ、参加者は自分の興味のあるトピックのセミナーに参加できた。各会場収容人数は、200～500人程であった。シンポジウムの内容としては、傷害の治療、リハビリテーション、ケーススタディ、アスレティックトレーナーの地位向上、

カリキュラム内容、これからのアスレティックトレーナーの雇用など多種多様であった。

2) ワークショップは計66用意されており、参加者は総会申し込み時に第3希望までを記入し、主催者側で1ワークショップを割り当てる方法をとっていた。ワークショップ会場は一般シンポジウムセッションに比較すると小さめの会場で、発表者と参加者がお互いに対話をしながら進行していた。

3) ミニコースは資格取得者のみ参加できる上級実技コース、4) 上級セミナーはミニコースよりもより専門的であり、上級な内容を6時間の実習を含んだ授業で行われた。これら3) ミニコース、4) 上級セミナーの参加には一般申込金以外の追加料金を必要としていた。

5) ポスター、6) 口頭発表は最近発表され注目を集めた研究内容などの発表などが行われた。

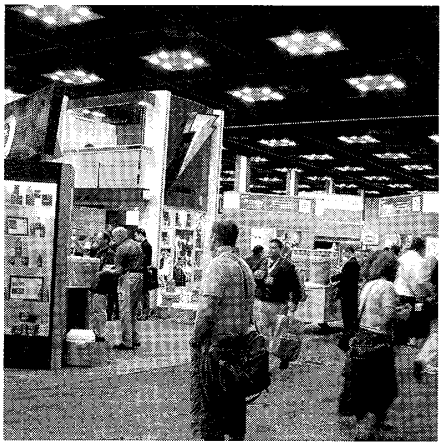
7) アスレティックトレーニング学生用には「学生トレーナーとしてのあり方」、「資格試験への取り組み方」などのセミナーが開かれ、献体の一部を持ち込んで実際に献体で部位を説明しながら進める授業もあったという。(図6)

8) その他大掛かりなスポンサーブースもあった。(図7)

図5　年次総会セッションの様子

図6　年次総会学生用セミナー
献体解剖を使った授業の様子

図7　年次総会スポンサーブースの様子



3) 主なNATA総会聴講トピックについて

6月13日（月）13：00－16：00

セッション11　州ライセンスという同一ゴールへ向けての働き

(Working Toward a Common Goal of State Licensure)

NATA　政治事務委員会発表

このセッションでは、州ライセンスの構築方法について様々な観点からの発表があった。発表内容には、活動資金の収集方法論、州組織と草の根サポート、連邦ロビーストの今年の活動状況、連邦の法律についてがあった。

近年米国において、「アスレティックトレーナー」は、高校や大学での唯一の運動医学専門家として活動を行っている。一昨年、「アスレティックトレーナー」の病院での活動をメディケア、メディケイド（米国の高齢者用健康保険

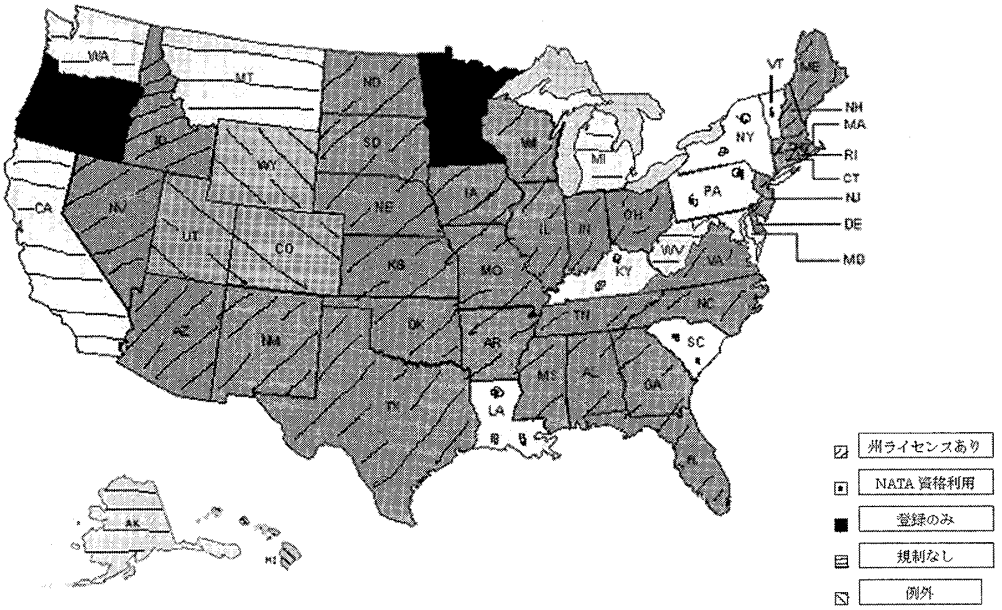
制度）利用者対象者のケアから排除するためのキャンペーンがあり、メディケア、メディケイドの保険適応資格者は、「理学療法士」、「作業療法士」、「言語療法士」のみであると謳われた。この動きは「アスレティックトレーナー」にとっては衝撃的なものであった。そこで全州で「アスレティックトレーナー・州ライセンス」を作ることで、「アスレティックトレーナー業界には共通言語があり、専門家として教育を受けている資格者である」ことを社会に証明することが必要であると述べた。

このセッションでは、NATAは平成17年5月27日にCMS（Centers for Medicare Medicaid Services, メディケア、メディケイドサービスセンター）に対し訴訟を起こしたとの発表があった。この訴訟は現在も行われているが、1)NATAはアスレティックトレーニングの活動を行っていく上で、NATAのゴールを成就させる、2）共通言語の構築、州ライセンス構築などによって、「アスレティックトレーナー」の存在を知らしめる必要があるなどの点について述べた。また、例として、ジョージア州では「アスレティックトレーナー」が健康管理を扱う専門家として認知されたり、またテキサス州では200人の医師と若い学生達が中心となり、「アスレティックトレーナー」の州ライセンス取得運動を行い成功したとの報告もあった。

州の健康管理組織の構築には、核となる人材選び、そして消費者となる患者を巻き込んだ将来設計が必要であると述べた。組織作りには、政治家や専門家が必要となり、各職業にはジョブディスクリプション（契約内容）も必要であるとした。また、専門家は多層であることが望ましいとした。上院からの演者は、メディケア、メディケイドの訴訟について、「アスレティックトレーナー」と「理学療法士」の仕事内容は違うため、仕事内容の線引きが必要であるとした。

この様に、草の根運動が州にそして国会レベルの活動になってきている。これからの活動としては、現在自分が置かれている地域を知り何ができるか考えていくことが必要であると述べた。また別の演者は州、連邦の法律についての報告をした。ここでは、現在全米43州の中で

図8　米国全土のアスレティックトレーナー州ライセンスの有無
（参考文献9,NATAホームページ会員限定サイトより抜粋して編集）



アラスカやカリフォルニアは州ライセンスを定めていないこと、最近の活動では、7州で州ライセンスが設立されたことを報告し(図8)、この州ライセンス設立の背景には強固な同一言語、新立法や基本などがあったことを強調した[9]。

いくつかの州では、州ライセンスを「アスレティックトレーナー」の資格基準とし、NATAの定めているATCを取得していることを問わない州もあるという。NATAは、LIME Team (Leadership, Information, Management, Education)と呼ばれる州の法律の専門家に立ち向かっていけるチームも作り活動をしている。このセッションの結論としては、個人が州のライセンス取得活動に積極的に参加し、上院などと関係を作り、より自分の州を知っていくことが将来のアスレティックトレーニング業界の発展につながるとまとめた。

6月14日（火）8：15－11：15

セッション14　中学、高校でのアスレティックトレーニングプログラムを成功させるキーポイント (Key Aspects of a Successful Secondary Athletic Training Program)

NATA中学、高校アスレティックトレーナー委員会発表

ここでは、中学、高校のアスレティックトレーニングプログラムを成功させるための4つのキーポイントについての話があった。これらのポイントは、1) アスレティックトレーナーの社会への認知、2) コーチとATCのコミュニュケーション、3) 資料管理、4) 緊急時のプランについてであり、中学、高校でのアスレティックトレーナーの初期の活動方法や、現在のプログラムを向上させるためのアドバイスなどが報告された。

発表者の調査によると、米国の中学・高校のATCの現状としては、高校ATCの活動場所は53%が高校のみ、34%がスポーツメディシンクリニックと高校の兼務（午前はクリニック、午後から高校勤務）の状態であるが、各高校には常勤のATCが必要であると述べた。また高校におけるATCの活動人数をみると、現在85%の高校にATCが1人、14%の高校にATCが2人以上勤務している。高校勤務のATCに仕事内容のアンケートを行い（複数解答可）、仕事内容を調査した結果、教育（79%）、コーチング（42%）、管理（51%）、その他（29%）の仕事内容であり、教育とコーチング職の兼務が多く見られた。また60%のATCが競技復帰の決定権は自分にあると述べ、39%は他の人物（ドクター、コーチなど）にあると答えた。全チームの69%にチームドクターの存在が認められた。中高校に勤務するATCの平均給料は＄30,000－＄40,000であるとの報告があった。

6月14日（火）8：15－11：15

セッション16　大学アスレティックトレーニングルームのプログラム内容とそのあり方 (Program Practices and Recommendations for the College/University Athletic Training Room)

ここでは、5人の演者により薬品の投与と管理、医師の任務と実際、薬物検査、アスレティックトレーニングルームの運営・管理、およびNCAA(National Collegiate Athletic Association、全米大学体育協会）の最近の動向についての報告があり、参加者が5つの質問を受けると共に、演者間の意見の交換が行われた。

薬の処方と管理については連邦や各州の規制があり、その実際においては文書の作成を適正にし、とくに実際の使用と保管分について区分することが強調された。医師の任務の実際については、BIG10(米国のスポーツにおける大学グループの1つ)の大学を対象にした調査結果に基づいて実情が分析された。20項目にわたる動向について、ある程度の共通性は見られるが、サービスの実施状況に差がみられるとした。薬物使用の検査の難しさが指摘される中で、検査期間や手順の基本例が説明された。問題は摘発される前に教育的努力をすることが強調され

た。アスレティックトレーニングルームの運営管理については教科書的な検査項目の説明があった。

アスレティックトレーニングプログラムの教育に関する評価は年に1回行い、施設における緊急用プロトコルなどについても説明があった。その他、伝染病や放射能などの管理や一般的施設管理方法についての話があり、参考となる資料やホームページなどが紹介された。また、NCAAの現状においてはアスレティックトレーニングのサービスに対する期待が述べられた。

6月15日（水） 8：15－11：15

セッション22 今日のヘルスケア市場にアスレティックトレーニングの仕事をどう作るか？ (How to Create Your Athletic Training Job in Todays Health Care Market?)

今日のヘルスケア市場はスポーツ選手特有な技術や知識に目を向け始めている。このセッションでは3つの近代的とも言えるATCの職場紹介として、芸術関係、フィジシャンエクステンダー（医師手伝い）、ビジネスオーナーの実例をもとに、最近のアスレティックトレーナー職の傾向や問題について、交渉技術、給与アンケート結果（図2、3、4）、現在の就職状況、求職者へのサポートシステムなどについて話しがあった。報告には、ATCの平均給与やブロードウエイミュージカルなどの新しい分野で活動しているATCの仕事内容の紹介などがあった。

6月15日（水） 14：30－17：30

セッション27 文化を学ぶ:Eラーニングの現代と将来の傾向 (Learning Cultures: Current and Future Trends in E-learning)

ほとんどの大学でBLACKBOARDやWEBCTと呼ばれるオンラインマネージメントシステム(LMS)を介した遠隔教育が実施されている。この様なシステムを利用することで教育者はコース用の教材を利用しながら対話などができるようになった。ここではEラーニングにおける問題、特に学生のプレージャリズム（アイデアの盗用）、教育者の所有権や知的所有権、オンライン書式の効果的な評価方法とEラーニングの教育法について述べられた。

6月16日（木） 13：00-14：30

ワークショップ3 アスレティックトレーニング教育プログラムのための健康教育モデル (Health Education Model for Athletic Training Education Program)

ここでは、米国で深刻な問題となっている若年者の喫煙、麻薬乱用、性行為などへの教育について南ルイジアナ大学での教育活動内容の報告があり、参加者は数名に分かれて各学校での取り組みなどについてのディスカッションを行った。この様な問題は学生アスレティックトレーナー（AT）を教育することによって、学生ATから他の学生(選手)への指導がなされていくとの提案があり、学生ATへの教育の仕方についてディスカッションが行われた。

私たちのグループは性教育についてのディスカッションを行い、仙台大学ではまだアスレティックトレーニングのカリキュラムが確立の途中であり、また、文化的違いから性教育は米国ほどには必要だとは感じられておらず、積極的にはなされていないと報告した。他大学でも、必要性と現状は地域性や学校により異なるとの話があった。異文化では教育内容も異なる可能性があると認識できる内容であった。

第56回NATAコンベンション参加者は研究計画に基づく研究「ハワイ大学アウトリーチカレッジの遠隔授業を利用した米国アスレティック・トレーナー資格取得のための人材育成開発手法の探求」の代表メンバー（朴澤泰治理事長、石川旦教授、佐藤美保学長秘書、深井麻里助手）と仙台大学4年、鈴木のぞみ（現在、ハワイ大学大学院進学希望のため英語学校へ留学中）であった。

参考文献

1. Ebel, G. R. (1999). Far beyond shoe box: Fifty years of the National Athletic Trainers'Association. Forbes: New York. pp. 1-84
2. O'Shea, M. (1980). A History of the National Athletic Trainers' Association. National Athletic Trainers'Association: Greenville. pp 1-82.
3. 鹿倉二郎 .(2002)　米国におけるアスレティックトレーナーの教育制度と資格認定制度—特集健康、体力づくりの指導者—現状と課題—（その 1）. 保険の科学 448（11):840-845.
4. National Athletic Trainers' Association Home Page.(http://www.nata.org) , Accessed on November 17,2005
5. National Athletic Trainers' Association Board of Certification Home Page, BOC Certification. (http://www.bocatc.org/becomeatc/CERT/), Accessed on November 17, 2005.
6. National Athletic Trainers' Association. NATA Members Statistics, NATA Membership by Class & District for November 2005. Accessed on January 19, 2006 from https://www.nata.org/membership/MembStats/2005_11.htm
7. New Salary Survey Shows Increased Pay in Most Settings. (2005). NATA NEWS. June 2005:22-23.
8. Thompson, Clint. (2000). Once Certified, Always Competent? Journal of Athletic Training. Editorial:17-18.
9. State Regulatory Boards. National Athletic Trainers' Association Home Page Members Only Section.(https://www.nata.org/members1/committees/gac/stateregboards.htm),Accessed on July 20, 2005.

（平成 18 年 1 月 22 日受付, 平成 18 年 3 月 14 日受理）